

札幌市社会福祉協議会が実施する「市民後見推進事業」について

少子高齢社会が進展する中、判断能力が不十分な認知症高齢者や障がいのある方が、住み慣れた地域で安心して暮らしていくためには、成年後見制度の利用等、権利擁護の推進がより一層重要となってきます。

成年後見制度は、家庭裁判所が選任した親族や弁護士等が、対象者の身上保護（介護サービス利用契約等）や財産管理（預金の出し入れ等）を行うもので、認知症高齢者の増加等に伴って、その必要性は一層高まってきており、需要はさらに増大することが見込まれています。

そのような背景のなか、弁護士や司法書士といった専門資格は持たないものの、社会貢献への関心の高い一般市民が、一定の基礎知識と技術を身につけて「市民後見人」として活躍されることが期待されています。

札幌市社会福祉協議会では、この市民後見人の養成研修をはじめとした市民後見推進事業を札幌市の委託を受けて平成26年度から、弁護士、司法書士、社会福祉士をはじめとする専門職等で構成される運営委員会を設置して、以下の業務を実施しています。

- ・養成研修及びフォローアップ研修の運営
- ・養成研修受講者の選考及び最終修了者の決定
- ・市民後見人候補者の登録、登録の更新
- ・市民後見人候補者の受任調整 等

養成研修は基礎研修（5日間）、実務研修（8日間）の二段階方式で、のべ55時間、座学や演習、施設実習、同行実習等、の内容となっており、これまで約100名が修了し市民後見人候補者として札幌市へ登録されています。

候補者の状況としては、男女比は4対6で女性が多く、平均年齢は63歳となっています。職歴も会社員、主婦、警察官、行政職員、教員等様々ですが、皆、社会貢献への高い志を持った人たちです。

家庭裁判所から受任される市民後見人は基本的には、2名ペアでの活動となります。被後見人の中には意思疎通が難しい方もいますが、訪問時にはスキンシップをはかったり、童謡を一緒に歌ったり、男性同士の場合には一緒に将棋をさしたり、また、家族に代わりクリスマス会等の施設行事に参加したりと、被後見人の居住地の近隣で生活している同じ地域に住む住民同士として、市民目線でのきめ細やかな身上保護が行えるといった、市民後見人の特性を活かした後見活動が行われています。

成年後見制度については、2016年に「成年後見制度の利用促進に関する法律」が施行され、この法律に基づいて2017年は「成年後見制度利用促進基本計画」が策定されるなど、大きな変革期を迎えています。札幌市社会福祉協議会としては市民後見推進事業をはじめ今後も引き続き権利擁護の一役を担っていけるよう各種事業を推進してまいります。

札幌市社会福祉協議会

自立支援課 大下 和章



ワン・オール ピアサポーターの活動について

ワン・オールでは平成27年度から「精神障がい者地域移行生活移行支援事業ピアサポーター活用業務」の委託を受けています。

精神科病院に長期入院の方の退院・社会復帰をピアサポーターならではの寄り添い方でサポートしていくという事業です。

これまでに6名の方の退院をサポートした実績があります。

具体的には、入院先の病院を訪問し面談を重ね、ご本人が望む生活を実現させるために様々な支援をします。長期入院のために失われた社会性を取り戻していただくよう、一緒に外出して公共交通機関の利用の仕方を身につけていただいたり、お買い物に同行したり・・・。

グループホームや新しい住居の見学にも一緒に行きますし、福祉サービスの手続きのお手伝いや通所先の検討も行ないます。

退院後も地域定着として一定期間の訪問を続け、一緒に悩んだり困ったり工夫したりしながら、生活が軌道にのるようにお手伝いしています。

ご本人了解のもと、関係機関の方々には面談や訪問の記録を共有しています。同じような体験をしたピアサポーターとしての視点や対応はご好評頂いており、その記録からご本人の変化に気づき、早めの対応が出来たということもありました。

現在、この事業には女性1名、男性2名の合計3名のピアサポーターが携わっています。

各種研修(傾聴、守秘義務など)にも積極的に参加し、支援者としてのスキル向上にも努めているところです。

ご相談、お問合せは随時行っております。皆さまからのご連絡心よりお待ちしております。

【ピアサポーターのご紹介】



◇池内さん(40代女性です)

市外で7年前からピア活動を行い、札幌に転入しワン・オールのピアとしてH27年度から活動中です。研修で49年間も精神科に入院していた方のお話を聞き、その様な現実があることに驚愕しました。

入院中に失いかけた勇気やプライドを取り戻して頂き、もう一度地域で暮らす初めの一步を、明るい未来をサポートしたいと活動しています。



◇鈴木さん(30代男性です)

ワン・オールピア歴半年ほどです。自分の入院中、「退院したくない」と言っている同じ病棟の仲間がいて不思議でしたが、「退院したくない理由」があることがわかった時、とても複雑な気持ちになりました。「理由」があっても、自分らしく充実した地域生活ができるよう、一緒に考えたい。経験が少ないですが、その一心で仕事に取り組んでいます。



◇北川さん(50代男性です)

ピアサポーターになって、まだ日は浅いですが、介護員として高齢者の話を傾聴していた経験から障がいを持つ方のお話を聴くのも好きな仕事の一つです。

引きこもり生活を長年したり、お金の管理が上手くできずに苦労した経験を活かしたピア活動をして行きたいと思っています。

編集後記

今号では、札幌市社会福祉協議会自立支援課大下氏より、「市民後見推進事業」についてご寄稿いただきました。ありがとうございました。次年度も、ワン・オールの活動をはじめ他機関の取り組みや、制度情報などの発信をしてまいります。よろしくお願いいたします。

さっぽろ地域づくりネットワーク

ワン・オール



〒064-0808

札幌市中央区南8条西2丁目

市民活動プラザ星園 302号

TEL:011-213-0171

FAX:011-213-0172